精神・知的障害者への対応にどう取り組んでいくのか

公明党　松澤　堅二

問　今国会に提出、審議されている新バリアフリー法案では、精神・知的障害者を含めたすべての障害者に対して配慮するとしているが、市では精神・知的障害者への対応についてどう考え、どう取り組んでいくのか。また、バリアフリー推進協議会で議論、検討をした内容についての公表方法とその進ちょく管理は、どうするのか。さらに、市の取り組み状況を内外に渡って伝えるとともに障害者に情報を知らせるためのバリアフリーマップを作成し、ホームページに掲載してはどうか。

答　精神・知的障害者への対応については、施設の改善とかではなく、正しい知識の下で地域住民の理解や協力が得られるよう意識啓発をするなど、日常生活に関わる心のバリアフリーの面から支援する。そして、今後もバリアフリーに関する講演会や小・中学生の学習発表会等の開催を続けていきたい。また、協議会で調査、検討した事項は、概要としてホームページ等で公表する。進ちょく管理については、各関連部署で実施計画と同様に行い、その結果を協議会に報告をする。なお、バリアフリーマップについては、認識がなかったので、今後十分調べてみたい。

（他に「子どもの居場所事業について」を質問）

ごみ削減のためにたい肥化とせん定枝等の対策を

神奈川ネット　渡部　市代

問　本市のごみ処理は三市で組織する高座清掃施設組合が行っているが、県のごみ処理広域化計画で大和市を加えた大和高座ブロックが位置付けされ、現在、広域化実施計画が策定されている。持続可能な環境づくりのため、また、現在、使用している焼却炉の更新時期が近く課題がある中、ごみの削減は必須であり、今後の手段として、生ごみのたい肥化実験やせん定枝への取り組み、その他プラスチックのRPF化を考えないか。また、四月に変更した新たな収集体制における現状と今後のごみ五〇％削減に向けての取り組みは。

答　生ごみたい肥化とせん定枝については、ごみ処理広域化の取り組みの中で検討課題として進める予定であり、熱資源として再利用するその他プラスチックのRPF化については、徹底した分別による混合物の排除が必要となるため、現段階での実施予定はなく、今後の研究課題にしていく。また、収集体制変更後も可燃ごみの中には、紙類や容器プラスチックなど多くの資源物が含まれているため、五〇％削減に向けてさらに資源化や分別を徹底するとともに、ごみの出し方の周知やリデュースへの取り組みなどを行っていく。

（他に「不登校の児童・生徒の支援について」を質問）

より利用しやすい市内バス網を育てていくために

日本共産党　上田　祐子

問　小園、早川方面は、路線バスが比較的多いとの理由でコミュニティバスが通らない。高齢者福祉会館等市役所より先へ行くための対策、路線バスの料金がはね上がる小園、日立相模前、北原の料金据え置きの交渉を。南北への行き来等コミュニティバス乗り継ぎ料金割引の考えは。また、ばらバス廃止に伴い、路線バスを利用せざるを得なくなる高齢者、障害者のための路線バス割引制度を考えるべきでは。将来、バス会社に移行することを考えるなら、赤字の間は市、黒字はバス会社という不適当がないよう対等な立場での交渉を。

答　コミュニティバスは交通不便地域解消のために始めた事業で、対象から外れる地域もあるが、対応として乗り継ぎ無料化を検討している。路線バスの料金は、国の基準と採算性から決めるようだが、今後総体的に協議していく。乗り継ぎ料金割引の考えは、バス交通検討市民会議でも課題となっており、十分協議していく。六十五歳以上の高齢者と障害者にはコミュニティバス料金を下げ百円にする考えだが、路線バス割引制度は考えていない。将来、早期に本来の民間公共交通機関の事業となるよう市民の利用増進に努めていく。

（他に「市場化テスト、行政評価について」を質問）

春日台中の校舎の鉄筋コンクリート壁は本当に安全か

日本共産党　松本　春男

問　春日台中学校の建築工事については、先の十二月と三月の議会で一般質問を行い、手抜き工事であることを指摘し、子ども達が安心できるよう一日も早い補修を要望してきた。市では被害は大したことはないという認識であるが、一月の検査に立ち会った際、壁筋が結束されている箇所は一カ所も目視で確認できなかった。結束してないため、生コンを入れた時に鉄筋が押され、かぶり不足からさびの爆裂でこのような表面に飛び出す状況になったと思う。また、コンクリートは中性化試験だけで強度試験はせず、それで強度上本当に安全であると言えるのか。

答　春日台中学校の施工について市では、間組が手抜き工事を意図的にしたとは解釈していない。間組でも手抜き工事という考えではなく、施工上のミスは認め、既に二十二年経っているが、学校ということもあり、道義的な責任から、危険な箇所の補修を責任を持って行うとしている。また、コンクリートの強度は、施工時にテストピースにより圧縮試験を行っており、問題がないので、今回は検査の必要がないと思う。なお、補修後にさびが出た場合は、間組に前向きな対応を要請していく。

（他に「障害者自立支援法について」「基地問題について」を質問）

インターチェンジ設置に市民や企業のさらなる理解を

佐竹　百里

問　綾瀬インターチェンジについて昨年県が実施した採算性等の予備調査の結果で本体を百億円と見込んでいるが、企業への移転補償などすべてを含む妥当な積算なのか。また、今後、増えることはないか。インターチェンジは、利用交通の集中により環境への影響が大きいため、対策も含め、市民や企業等と十分に対話を重ね、理解を得た上で進めるべきでは。さらに、インターチェンジを活用したまちづくりを進めるには、行政、市民、企業がそれぞれの役割分担の中で、互いに連携し協力し合える体制づくりが必要と考えるが。

答　航空写真から地形図を作成の上、地形や交差接続する道路状況などを考慮して、基本構造等を検討し算出した概算工事費であるが、今後、形態や物件補償などを詳細に検討、積算することで、事業費の変更もあり得る。事業の理解を得るため、市民にはオープンハウスなどで説明しており、今後はさらに周辺地域での説明会を含め情報提供に努めていく。また、企業とも議論を交わしていきたい。インターを活用したまちづくりには行政、市民、企業による体制づくりとともに市民が理解できるようなシステムづくりが必要と考える。

（他に「危機管理について」「男女共同参画プランについて」を質問）

健康長寿のため国保加入者の人間ドックに助成を

公明党　矢部　とよ子

問　生活習慣病、介護予防など、健康に対する意識が高まっている昨今、人はだれもが健康で長寿を望んでいるが、加齢とともに体内機能も体力と同様に衰え、多少の疾病も仕方のないことである。しかし、従来から行っている基本健康診査に加え、今年度から前立腺がん受診者に対する助成制度を設け、病気の早期発見、早期治療を図っているが、これは同時に医療費の抑制にもつながっている。そこで、もう一歩前進した取り組みとして、県内十九市中十五市で実施されている国保加入者の人間ドック受診に対し、新たに助成する制度を実施しないか。

答　国保加入者に対する保健事業として、基本健康診査、がん検診及び結核検診を実施している。なお、今年度からは新たに前立腺がん検査を基本健康診査と同時に受診できるようにした。これらの検診により、人間ドックの検査項目と同等の内容を受診したこととなり、多くの加入者が受診している。今後においては、基本健康診査やがん検診等に多くの人の受診を促すことにより疾病の早期発見に役立て、市民の健康保持及び増進を図っていきたい。従って、人間ドック受診者への助成制度については現在のところ考えていない。

（他に「防災訓練について」を質問）

市役所敷地内の車両と利用者の安全対策はどうか

公明党　出口けい子

問　本市の庁舎は、緑豊かで自然と一体化し、塀を設けないことから開放感があり、市民がどこからでも来庁できるようになっている。建設から十年間、人口も増え、周辺の環境が変化している中で、市役所の敷地内の安全対策として、特に路線バスの降車場と待機場所の危険性は高く、さらに今後三台増車予定であるコミュニティバスの待機場所にもなるため、限られたスペースの中でこれらにどう対応し、利用者の安全を図るのか。また、敷地内を抜け道としている車両への対応と自動二輪専用の駐輪場設置の考えはないのか。

答　正面玄関前は降車場やバスの待機場所であり、玄関の車寄せから出た車が待機するバスが死角となり危険なため、カーブミラーや路面表示で安全対策を図った。さらに、十一月から一日三十七便に増えるコミニュティバスと、既存のバスの時間調整機能もあることから、バスロータリーの池の一部を待機場所に改良することやバスの時間調整を検討している。また、敷地内を通り抜ける車両には、通り抜け禁止の立て看板等を設置し啓発していく。なお、自動二輪の駐輪場については試験的に表示をし、状況を見て対応する。

（他に「男女共同参画社会の実現に向けて」を質問）